

すぎなみ教育報



No.200

平成23年3月14日

すぎなみの教育情報発信中!

教育委員会ホームページ

<http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/>

発行

杉並区教育委員会

杉並区阿佐谷南1-15-1

☎ 3312-2111 FAX 5307-0692

おかげさまで200号 — 杉並区の教育いまむかし —

「すぎなみ教育報」は、昭和48年5月に第1号が発行され、杉並区の教育の歴史を刻み続けています。

本号では、第200号の発行を記念して第1号の発行から今日まで、38年間の歩みを振り返ります。

1号 (昭和48年)

200号 (現在)



【高井戸東小学校の開校】

当時の主食はパンが種類。カレーにもご飯ではなくソフト麺です。

区内で米飯給食が始まったのは昭和53年からでした。

舟きゅう

牛乳

ソフト麺

カレーあんかけ



【天沼小学校の新校舎竣工】

多様化給食の一環としてバイキング形式の給食もあります。

■ 杉並区人口 532,682人
■ 世帯数 220,250世帯

■ 児童生徒数 小学生 36,013人
中学生 14,812人

■ 杉並区人口 527,073人
■ 世帯数 291,437世帯

■ 児童生徒数 小学生 18,088人
中学生 6,191人

この間に完成した杉並区の主な教育施設!



久我山小学校 (昭和53年)



清美養護学校 (昭和54年)



中央図書館 (昭和57年)



永福南小学校 (昭和62年)



郷土博物館 (平成元年)



社会教育センター (平成元年)



荻窪体育館 (平成3年)

時代の証言者にインタビュー
～当時の話を伺ってきました～



荻窪中学校・小松崎校長

プロフィール: 昭和 53 年に杉森中学校で教員生活をスタート。教科は国語。当時の在籍校は1クラス 46 人で学年 6 クラス。思い深いものはインベーダーゲーム。(似顔絵は、現任教員卒業生作)

生活環境が変化しているので違う部分は多いですが、子どもたちの本質の部分は変わってないと感じます。当時の授業では、文章一行一行を生徒たちと意見交換しながら読み進めていったことが思い出深いですね。教え子の子どもたちを教えたり、教え子が教師になって再び出会えたことは教師冥利に尽きます。



プロフィール: 昭和 48 年当時、杉並第九小学校の 3 年生。現在は同校の学校支援本部で活躍。当時の在籍校は 1 クラス 40 人で学年 5 クラス。好きだった給食は、ソフト麺。

学校には友達と遊びに行くという感覚で、「いろいろ」「たかおに」「ろくむし」など暗くなるまで、とにかくみんなで遊んでいました。遠足は、高尾山や小金井公園などに行きましたが、これは現在も同じようですね。当時は、中杉通りが拡張工事中で、その空き地で遊んでいたのもいい思い出です。



○「本と夢」乗せて走ったたびとくん (昭和52年 25号)

現在は13館ある図書館も当時は5館。図書館から遠い地域の人のために移動図書館「たびとくん」が区内を駆け巡りました。



○コンピュータ学習の始まり (昭和63年 92号)

今や欠かせない存在となっているパソコンですが、区立学校での学習が始まったのは、この頃でした。パソコンの大きさからも時代を感じますね。



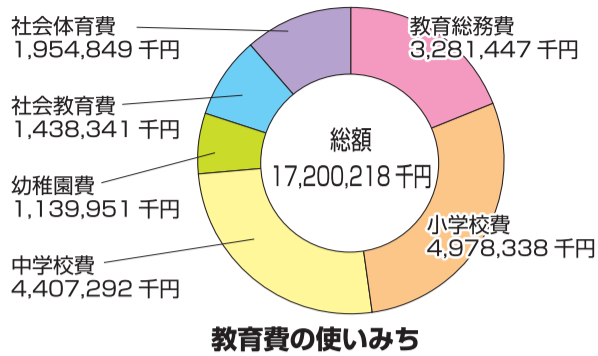
○学校週5日制スタート (平成4年 116号)

土曜日が休業日となる「学校週5日制」が始まったのがこの年。家庭や地域とともに自然体験や文化・スポーツなど様々な経験等をする機会が増えました。

他にもこんなことがありました…

むかしを振り返った後は、これからの未来へ! 明日を拓くための平成23年度教育予算の概要は、次のページをご覧ください。

平成23年度 教育予算の主要事業を紹介します



平成23年度の教育予算は172億21万8千円となり、区の一般会計予算の11.6%を占めています。

教育委員会では、平成23年度を「今後の10年間を展望した教育ビジョンの策定に取り組む年」と位置づけ、これまで取り組んできた施策の成果や課題等を踏まえ、今後の10年間（平成24～33年度）における新たな「杉並の目指す教育」を実現するための指針として「新教育ビジョン」を策定するとともに、以下の項目を重点に取り組んでいきます。



30人程度学級の様子（桃井第一小学校2年3組）

より良い学習環境のために

○ 空調設備（予算額 14億5298万円）

児童・生徒の学習効果を高めるため、6月までに区立小・中学校の普通教室にエアコンを設置します。

○ 30人程度学級の小学校全学年への拡大

児童の発達段階に考慮しながら、学校生活及び学習面にきめ細かな配慮をするため、小学校1～4年生を対象に実施している「30人程度学級」を小学校全学年に拡大します。（平成23年度は小学校5年生まで拡大）

確かな学力、豊かな心と社会性を身につけるために

○ 学校司書の充実（予算額 8582万1千円）

区立小・中学校の図書館に、司書等の資格を有する学校司書を配置し、学校図書館の運営業務や授業支援等を行います。

区では、平成21年度から学校司書を配置しています。現在、22校に配置していますが、平成23年度はさらなる充実を目指します。なお、平成23年度の学校司書の採用情報は、4月1日以降に広報すぎなみと教育委員会公式ホームページにて掲載を予定しています。



図書委員と一緒に活動中（西宮中学校・学校司書）

○ 中学校補習授業の支援（予算額 750万円）

経済的な環境にかかわらず、すべての子どもたちに確かな学力を身に付けさせることを目的として、区立中学校が夏季休業中に実施する補習授業への支援を行います。

○ 中学校フレンドシップスクールの実施（予算額 685万5千円）

中学校1年生を対象として、中学校進学に伴う生活環境や交友関係の変化に対応できる力を育てるために、試行実施してきた宿泊行事“セカンドスクール”を新たな宿泊事業“フレンドシップスクール”として14校で実施します。



大宮前体育館完成予定図

生涯学習を推進するために

○ 大宮前体育館の移転改築（予算額 9億282万6千円）

スポーツの多様化に対応するとともに、地域スポーツ活動を振興するため、老朽化した大宮前体育館を旧荻窪小学校の跡地に移転改築します。健康増進プール、武道場、トレーニングルーム等が完備され、様々な年代の人々が交流できる施設になります。（平成25年度完成予定。予算額は平成23年度分）



平成23年度 就学援助のお知らせ

就学援助は、区内在住で国公立の小・中学校に通学している児童・生徒の保護者に対し、学用品や給食など学校で必要な費用の一部を杉並区が援助する制度です。

対象：杉並区に住民登録がある児童・生徒と同居の保護者で、次のいずれかに該当する方

- (1) 現在、福祉事務所の生活保護を受けている。
- (2) 平成22年4月1日以降に、生活保護が停止・廃止になった。
- (3) 平成22年中の世帯員全員の総所得金額の合計が、生活保護基準額の1.2倍以下の世帯（父・母・小学生（4年生）・幼児の4人世帯の目安は407万円程度）

申込：申請書は、4月以降に区立小・中学校または学務課就学奨励係で配布します。区外の学校に通学している児童・生徒の保護者で、就学援助の受給を希望される方は、同係までお問合せください。

問合せ：学務課就学奨励係

子どもたちの生きる未来をつくる「縁結び」

私たちのまわりにある「縁」について、社会教育センターと学校の取組みを紹介します。

楽しく生きたい！ その願いはきっと老若男女誰でも同じ。無縁死3万2千人と言われる社会的不安を撥ね退けよう！

「無縁社会」—どこか他人事とは思切れない不安な気配が社会を覆う昨今、今年1月から開催した社会教育セミナー「ENGAKU(縁學)～“楽しく生きる”をデザインする」(主催：社会教育センター)には、そんな言葉に振り回されず、今後杉並でどんなふうに「縁」を結び、育みながら「楽しく生き」られるか、考える人々が大勢集まりました。

毎回研究者やTV番組プロデューサー、落語家、コラムニストなど、多彩な講師が登場。「血縁を見直す」「知縁を知る」「地縁を結ぶ」という切り口から専門分野の現状や事例、研究や調査に裏付けされたものの見方や考え方を提示し、受講生同士がいろいろな意見や思いを交わしてきました。

死と隣り合わせで人と関わらなければ生きられなかった時代と、ある意味一人でも生きていける現代では異なります。けれども、「楽しく生きる」には、大人も子どもも、身近なところに信頼し、気軽にSOSを出せる関係があることが必須！ なぜなら、同じことでも誰かと共有できれば、その楽しさは何倍にも膨らむし、たとえ辛いことがあっても支えられるから。この当たり前の事実に向きあってみると、今あるいろいろな地域の縁を見る目が変わったり、また違った縁を結んでみたいと思いませんか？ そう、こうして私たちがどのように人とつながって生きるか、その姿が、子どもたちの生きる未来を方向付けるのです！

価値観をグラッと揺るがされた受講生たちは、セミナーで得られた発想やアイデアを手がかりに、皆が楽しく生きる「縁」を広げられるよう、これからも地域でますます活動していきます。

血縁や地縁と言うと、ついつい面倒くささに意識がいつてしまうかもしれませんが、これも何かのご縁です。皆さんも、目を向ければすぐ傍にある「縁」を見直し、楽しく生きる「縁結び」を試みてみませんか。

ENGAKU(縁學) についての問合せ：社会教育センター ☎3317-6621



初回はお互いの問題意識や関心を共有するため、NHKスペシャル「無縁社会」をダイジェストで視聴し、番組プロデューサーの野林亮氏から解説を受けました。



あいさつは、人と人をつなげる最初の一步です。(杉並第八小学校)

学校・家庭・地域が結ぶ縁

「おはようございます！」朝8時、杉並第八小学校の通学路で行き交う人々の元気なあいさつが聞こえてきました。地域の子どもたちをともに育てていこうと学校・家庭・地域の三者が一体となり「あいさつ運動」を行いました。

これまでは、各校ごとに行っていましたが、今年度は、杉並第八小を始め、杉並第三小、杉並第四小、杉並第十小、高円寺中、高南中の6校の学区域で1月28日～2月4日の間、一斉に取組みました。

こうした運動が学校・家庭・地域を結ぶ縁となり、子どもたちの成長を支えるコミュニティづくりにつながっていきます。

杉並代表、中学生東京駅伝へ ～味の素スタジアムの疾走～



杉並区中学校対抗駅伝2010において、好タイムだった中学校2年生を中心に、区立・私立の代表42人が、杉並区の代表として第2回中学生「東京駅伝」大会に出場します。

選手たちは、選考会を経て、日頃のトレーニングに加え、年頭から合同練習を重ねています。

味の素スタジアム内から周辺を男子は42.195km、女子は30km、チームワーク良くたすきをつなぎます。都内51の区市町の代表が熱戦を繰り広げる本大会、ぜひ皆さんの熱い声援で選手たちを応援してください。

第2回中学生「東京駅伝」大会

平成23年3月21日(月・祝)

スタート：午前10時(女子)・午後1時(男子)

会場：味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園 特設周回コース

※詳しくは、東京都教育委員会のホームページ等でご確認ください。

給食の後には みんなで 歯みがき さっぱりと！



「歯みがき推進校」では、廊下に新しい流しが整備され活用されています。おいしい給食の後には、みんなで楽しく歯みがきタイムです。

杉並第十小学校の健康委員会集会では、健康委員が正しい歯みがきの仕方について、劇で全校児童にわかりやすく伝えてくれました。

現在7校の歯みがき推進校では、「給食の後も歯をみがくと気持ちがいいね」という子どもたちが増えてきました。歯みがきは、歯周病の予防とともに、自分の歯・健康は自分で守るという生活習慣にもつながります。

教育委員会では今後もこの取組みを広げていきます。



歯みがきタイム(杉並第十小学校)

問合せ：学務課保健給食係

ユネスコ



集まれ中学生！ユネスコで国際感覚を磨こう！ユネスコ中学生クラブ

杉並ユネスコ協会では、「戦争は人の心の中で起きるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」(ユネスコ憲章前文)—という考えに共鳴し、平和構築・国際理解への努力と実践を続けています。

中学生クラブでは、その精神を学ぶため、毎月1回、外国人の講師を招いて英会話を楽しく学びながら、世界の生活・文化への理解を深めています。世界に羽ばたきたいあなた！ぜひ中学生クラブへ！

○今春3月27・28日はインターナショナルスクールへの一日体験入学も行います。

日時：平成23年4月～平成24年3月の毎月第2土曜日 午後2時30分～4時30分 場所：セッション杉並ほか

対象：区内在住・在学の新中学1～3年生 費用：年間4,000円

問合せ：社会教育センター(梅里1-22-32) ☎3317-6621

教師養成塾「杉並師範館」の閉塾について

教師養成塾「杉並師範館」は、今年度養成した第五期生が3月6日（日）に卒塾したことをもって、教師養成事業を終了し今月末に閉塾いたします。

五期にわたる教師養成の成果

平成18年4月の開塾以来、杉並師範館は五期にわたって、「気高い精神と卓越した指導力をもった教師の育成」を念頭に、地域に根付いた熱意ある教師の養成を進めてきました。

第一期生が、平成19年4月区立小学校に配属されて以来、この4月には第五期生まで約120名の卒塾生が、杉並区の独自採用教員（区費教員）として全ての区立小学校で活躍することになります。

区費教員は、杉並区独自の30人程度学級の実施や理科・体育等の専科制の実施など、特色ある教育活動の一層の推進のために活用され、着実にその成果を上げてきました。



教育長による特別演習

区市町村レベルでは全国初の先駆的取組

区立学校の設置主体は杉並区であるにも関わらず、教員人事権は東京都教育委員会が持つといった状況下、教育の地方分権の動きをいち早く捉え、地域の願いに全力で取り組む教師を自前で養成するために設立・運営されたのが杉並師範館です。

杉並師範館の教師養成は、地域が責任を持って教員を養成し、区の教育の発展の礎を築くとともに、日本の教育のあり方に一石を投じたものでした。この5年間の教師養成事業は、教育改革の本質に迫る、分権時代にふさわしい先駆的な取組みであり、横浜市や静岡市など他自治体の教師養成機関の設立に多大な影響を与えました。

閉塾に至った経緯・今後の対応

この4月、区費教員が約120名（管理職・養護教員等を除く区立小学校教員の約13%）となる中で、昨年4月、教育委員会と杉並師範館との間に、「杉並師範館のあり方検討委員会」を設置し、協議・検討を行ってきました。

昨年10月、最終の検討委員会にて、「地域に根付いた教師の養成に、この間大きな成果を上げてきたこととともに、教員人事権の基礎的自治体への移譲が進まない現状等も踏まえ、今年度末をもって、杉並師範館は教師養成事業を終了する。」との内容で、協議・検討結果がまとまりました。



第5回卒塾式・閉塾式

これを受け、教育委員会は、杉並師範館の卒塾生を対象に行う教員採用選考を、今年度（第五期生）をもって終了することになり、あわせて、杉並師範館も教師養成事業を終了し、今年度末をもって閉塾することになりました。

今後、教育委員会は、養成の成果である区費教員を大切な人材として活かし、今後の教育人事行政の幅を広げ、杉並の教育の充実に向けた様々な取組みを展開していきます。

閉塾以来、多くの皆様にご支援ご協力いただき、感謝の念に耐えません。ありがとうございました。

問合せ：杉並師範館担当 ☎3311-2900

杉並区立南伊豆健康学園の今後の方針について

南伊豆健康学園は、健康課題（肥満・ぜん息・虚弱・偏食）の改善を図りながら義務教育を受ける機会を提供するため、昭和49年9月に西田小学校の特別支援学級として開設し、以来、36年にわたり恵まれた自然環境を生かした教育の実践により児童の健康回復を図ってきました。

この南伊豆健康学園のあり方については、平成12年から教育委員会事務局内において検討してきたところですが、入園児童が減少したこと、医療技術の進歩等の社会状況の変化の中で転地において健康回復・健康改善を図る健康学園の設置目的が薄れてきたこと、開設から36年が経過し施設の老朽化が進み改修費や運営経費が増加してきたことなどから、このたび平成22年12月16日の教育委員会において、南伊豆健康学園の今後の方針を以下のとおり決定しました。

方 針

- ・病虚弱児の教育施設としての南伊豆健康学園は平成24年3月末をもって廃止する。
- ・今後は区内において健康教育等の充実や家庭との連携強化を図っていく。

今後は、南伊豆健康学園の閉園にあわせ、改めて病虚弱児童等に対する課題への対応を検討し、支援策の再構築に向け取り組んでいきます。

問合せ：学務課就学奨励係

教育委員会の動き

教育委員会は、毎月第2・4水曜日に開催され、必要に応じて臨時会を開催しています。

【教育委員会開催状況】（22年11月～23年2月）

- ・定例会 6回
- ・臨時会 5回
- ・議案 27件
- ・報告事項 21件

【主な案件】◎は審議、○は報告事項

- ◎ 杉並区立南伊豆健康学園の今後の方針について
- ◎ 「平成22年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成21年度分）」の実施結果について
- ◎ 平成22年度杉並区指定・登録文化財の指定について
- 杉並師範館のあり方検討委員会の報告及び今後の対応について
- 平成22年度 杉並区学力調査、意識・実態調査結果
- 杉並区立永福南小学校・永福小学校統合同協議会における体育館・プールの改築等に係る検討結果について
- 郷土博物館の新たな運営方針の策定と今後の進め方について
- 「杉並区中学校対抗駅伝大会2010」の実施結果について
- 平成22年度杉並区立図書館経営評価結果について
- 杉並区の児童に対する健康教育推進等検討委員会の設置について



火のし

収蔵資料展「^{すぎなみ}杉並の^{いせいかつ}衣生活と^{どうぐ}道具」

大正期から高度経済成長期までに使われていた、衣生活に関連する道具を紹介します。衣服を作る、洗う、整える、しまうなどの作業で使用される道具をみながら、昔と今の道具の変化や、人々の暮らしぶりを紹介する内容です。

関連事業：昔のアイロン「火のし」体験 3月21日（月・祝）・27日（日）午後2時～3時

申し込みの必要はありません。当日、直接会場へお越しください。

期間：平成23年5月8日（日）まで 開館時間：午前9時～午後5時 休館日：毎週月曜日・毎月第3木曜日（祝日・休日の場合は開館し、翌日休館） 観覧料：100円（中学生以下は無料）

問合せ：郷土博物館（大宮1-20-8） ☎3317-0841

●再生紙を使用しています